江戸の遊び

第1回　「江戸の笑い」

わたくし〝ぶっくま〟と申します。
まずは、ブックリストの背景で使用している
判じ物文様について説明いたします。
第1回の背景は、江戸時代に流行した「斧琴菊文（よきことききくもん）」という文様です。
斧と琴と菊を表して「良きことを聞く」にかけたもので、
この文様は尾上菊五郎の歌舞伎衣装にも採用されました。

第2回の背景は、江戸時代に町奴（まちやっこ）の間で流行した「鎌輪奴文（かまわぬもん）」という文様です。
「構わぬ」と読ませるしゃれ。7代目市川団十郎が舞台の着付けに
用いたところから一時流行しました。
どちらも粋な文様です。

出典：【斧琴菊文】　世界大百科事典、【鎌輪奴】　日本国語大辞典
JapanKnowledge　https://japanknowledge.com

江戸時代

徳川家康が征夷大将軍になった慶長8（1603）年から、15代将軍徳川慶喜が大政奉還して将軍を辞した慶応3（1867）年までの265年間を指し、権力の中枢である幕府が江戸に置かれたのでこの呼称がある。
鎖国政策が維持され、大坂の陣以降、島原の乱を除いて幕末に至るまで戦争があとを絶った平和な時代であった。
幕府による諸政策の強い規制があったが、独自の発展をとげた経済・文化は、近来の日本人論で指摘されているような日本人に固有な思考慣習や気風の源として、現代の日本文化にも深い影響を及ぼしている。

参考：【江戸時代】　世界大百科事典　JapanKnowledge　https://japanknowledge.com
『歌舞伎（日本庶民文化史料集成；第6巻）』　権藤芳一、宗政五十緒、守屋毅責任編集　三一書房　1973　市閉　772/17/6

日本人は元々、遊び好きで遊び上手な国民であった。
『梁塵秘抄※』にも、

「遊びをせんとや生まれけむ
戯れせんとや生まれけん
遊ぶ子どもの声聞けば
わが身さへこそ揺るがるれ」

とあるように、遊ぶことが肯定的にとらえられている。
歴史の教科書では、江戸時代の庶民は封建制度に縛られ、暗く貧しい生活を強いられていたように教えてきたが、下層階級の人々は、それなりに楽しみを見いだしながら暮らしていた。幕末に日本を訪れた外国人の多くが、庶民がどれだけ幸せそうに暮らしていたかということを、驚きと称賛の気持ちを込めて書き残している。

出典：『江戸庶民の楽しみ』　青木宏一郎著　中央公論新社　2006　市開　215/AO
『神楽歌．催馬楽．梁塵秘抄．閑吟集（日本古典文学全集；25）』　臼田甚五郎、新間進一校注・訳　小学館　1976　市閉　F2b/349/25

『梁塵秘抄※』

平安末期の歌謡集。後白河上皇撰。1169年頃成立。当時の今様・法文歌・神歌などを集めたもの10巻、口伝集10巻、合わせて20巻があったらしいが、現在は一部しか伝わらない。秀作が多く、歌謡史上の代表的作品で、当時の民間の生活や信仰を伝える資料としても大きな価値を持つ。

出典：【梁塵秘抄】　全文全訳古語辞典　JapanKnowledge　https://japanknowledge.com

江戸独自の文化

1750年代を過ぎると、江戸は経済活動の膨張により、地方からの人口流入が加速され、中央集権の首都の容貌を整えた。ことに出版文化の発展はめざましく、遊里を舞台に遊びの世界を描き「通」の教科書ともされた洒落本や、大人の漫画・黄表紙、あるいは狂歌や川柳などが流行した。上方文化を圧倒して、江戸に独自の文化圏が誕生した。

出典：『絵でよむ江戸のくらし風俗大事典』　棚橋正博、村田裕司編著　柏書房　2004
市閉　382.1/79:R

資料名	著者	出版者	出版年	請求記号
Hokusai	by Gian Carlo Calza	Phaidon	2003	721/18
【電子ブック】 北斎漫画早指南	葛飾北斎画	富山堂	1892	収録データベース 国立国会図書館 デジタル コレクション

北斎漫画

葛飾北斎の画集。北斎による絵手本を集めたもの。1814年に初編を刊行。没後も刊行が続くが他筆も混じる。1878年に全15編をもって完結、収録された絵手本は約4000点にのぼる。「富嶽三十六景」とともに、欧州を中心とする海外の芸術家に影響を与えたことで知られる。北斎スケッチとも。

出典：【北斎漫画】　デジタル大辞泉　JapanKnowledge　https://japanknowledge.com

葛飾北斎［1760-1849］

江戸時代中期-後期の浮世絵師。
勝川春章に入門し、勝川春朗と号して役者絵を発表。のち狩野派、住吉派、琳派、さらに洋風銅版画の画法を取り入れ、独自の画風を確立。70年間に渡り旺盛な作画活動を続け、画域は風景・花鳥・美人・戯画と広く、錦絵、版本挿絵、肉筆画に優れた作品を残した。奇行で知られ、生涯に93回も引っ越しをした。江戸出身。
別号に画狂老人、戴斗、為一（いつ）、卍など。

出典：【葛飾北斎】　日本人名大辞典　JapanKnowledge　https://japanknowledge.com

資料名	著者	出版者	出版年	請求記号
幕末・明治の絵双六	加藤康子、 松村倫子編著	国書刊行会	2002	721/95:L

絵双六

1枚の紙の上に描かれたコマを辿っていくゲームで、盛んになったのは江戸時代初期といわれ、江戸時代中期以降、木版摺りの浮世絵の技術を取り入れた絵双六は、多種多様に刊行された。
現在は子どもの遊びのように思われているが、その素材の豊富で複雑な点と遊びの工夫から、江戸時代後期には、むしろ大人が楽しんでいたのではないかと思われる。
絵双六の世界を構成する素材にはありとあらゆる物が盛り込まれており、大衆文化の縮図といっても過言ではない。

出典：展示資料『幕末・明治の絵双六』　加藤康子、松村倫子編著　国書刊行会　2002
市閉　721/95:L

資料名	著者	出版者	出版年	請求記号
江戸・明治「おもちゃ絵」	上野晴朗、前川久太郎著	日本図書センター	2014	721/241

判じ物

文字や絵にある意味をあてつけて判じさせる謎解き。
絵のものを「判じ絵」、字のものを「字謎」などともいった。江戸の町人社会で戯作者中心に流行し、その類の版本も作られた。その余流はなお今日のクイズものにも残っている。判じ絵には複雑な図柄を配して工夫を凝らしたものも多く、「団扇絵」や「大小暦」などの図案として、毎年各自創案を競う傾向も生じた。

出典：【判じ物】　日本大百科全書(ニッポニカ)　JapanKnowledge
https://japanknowledge.com

資料名	著者	出版者	出版年	請求記号
Designed for pleasure : the world of Edo Japan in prints and paintings, 1680-1860	edited by Julia Meech and Jane Oliver ; with essays by John T. Carpenter ... et al.	Asia Society and Japanese Art Society of America in association with University of Washington Press	2008	721/32:L
【電子ブック】江戸の出版統制：弾圧に翻弄された戯作者たち	佐藤至子著	吉川弘文館	2017	収録データベース KinoDen

物之本屋と草紙屋

江戸時代の出版・販売業は、取扱い品目によって、学問書などを扱う「物之本屋」と娯楽的な読み物を扱う「草紙屋」（地本問屋とも）に分けられた。
江戸前期の出版業の中心は京都・大坂で、江戸を地盤とする本屋の発展は18世紀後半であった。19世紀初めの江戸には80軒の本屋があり、漢学書、蘭学書、浮世絵、黄表紙、合巻、滑稽本など新しい書物も登場した。また、この時期には600軒以上の貸本屋があり、読書人口の拡大に貢献した。

出典：『大江戸を知る本』　日外アソシエーツ株式会社編　日外アソシエーツ　2000
市閉　210.5/750:R

資料名	著者	出版者	出版年	請求記号
浮世風呂	式亭三馬著	いてふ本刊行会	1953	F2b/32/22

滑稽本

江戸後期の小説形態の一種。「滑稽本」は明治以後の文学史用語で、江戸時代ではその書型から「中本（ちゅうほん）」と呼ばれていた。
滑稽本の最初は静観房好阿作『当世下手談義（じょうかんぼうこうあ　いまようへただんぎ）』（1752）とされ、1804-1830年頃に全盛期を迎え、『東海道中膝栗毛』の十返舎一九、『浮世風呂』の式亭三馬、『花暦八笑人』の滝亭鯉丈（りゅうていりじょう）らが活躍した。

出典：【滑稽本】　世界大百科事典　JapanKnowledge　https://japanknowledge.com

浮世風呂

江戸後期の滑稽本。式亭三馬作、北川美丸・歌川国直画。4編9冊。
「諢話（おどけばなし）」の角書を持つ。1809-1813年刊。江戸町人の社交場でもあった銭湯での会話や老若男女様々な人物像を活写して、庶民生活の種々相を浮きぼりにしている。

出典：【浮世風呂】　日本国語大辞典　JapanKnowledge　https://japanknowledge.com

式亭三馬［1776-1822］

江戸後期の洒落本・滑稽本・黄表紙・合巻作者。別号に本町庵、四季山人、哆囉哩楼（たらりろう）など。市井の江戸人らしく酒好きでけんか早く、かんしゃくもちであったと伝えられるが、商才もあり、自身創案の化粧水「江戸の水」や歯みがき粉を売り出して成功した。著作に黄表紙、敵討物、洒落本などもあるが、本領は滑稽本で『浮世風呂』『浮世床』が代表作。当時流行の江戸落語と技法的に繋がるものが多く、いずれも日常生活の人間の性癖、心の表裏を、言葉つきや動作まで彷彿させるような徹底した写生で会話を主とした文章で描き、皮肉な笑いをたたえている。

出典：【式亭三馬】　日本大百科全書（ニッポニカ）　JapanKnowledge
https://japanknowledge.com

資料名	著者	出版者	出版年	請求記号
金々先生榮花夢 (複刻日本古典文学館；第1期)	戀川春町作	日本古典文学刊行会	1972	上：F2b/248/B3a:W 下：F2b/248/B3b:W

黄表紙

草双紙の一態。
1775年の『金々先生栄花夢』（恋川春町作・画）から1806年の『雷太郎強悪物語』（式亭三馬作、歌川豊国画）までの草双紙約2000種の総称。
名称は表紙が黄色であることによるが、前代の青本の表紙と類似するため、江戸時代は青本の名でよばれた。当時の知識人である武家作者によって形式が確立され、知的で徹底したナンセンスな笑いをその生命としながらも、洒落本同様、江戸市井の現実生活を踏まえ、きわめて写実的であった点が特徴。絵は文と不即不離の関係にあり、絵解きも黄表紙理解の重要な鍵で、当代第一級の浮世絵師（鳥居清長、北尾重政、喜多川歌麿、歌川豊国ら）が筆をとっている。最盛期は1780年代で、狂歌を中心とする天明文壇をはじめ、劇壇、画壇、吉原などの遊里と密接に関連する。

出典：【黄表紙】　日本大百科全書（ニッポニカ）　JapanKnowledge
https://japanknowledge.com

金々先生榮花夢

2巻2冊、戀川春町作・画。1775年刊。
「金々先生」とは当時の流行語で、流行の先端をいく金持ちの粋人の意味。
筋立ては謡曲『邯鄲』によるが、江戸の色里を舞台に、当世流行の通意識のさまざまを斬新な絵と知的な文で活写し、リアルな洒落本の世界をナンセンスな絵本に仕立てた。赤本以来の草双紙が子供向けであったのを一変させて大人向けの読み物とし、のち黄表紙の鼻祖と評価されるなど、文学史的に大きな意義をもつ。

出典：【金々先生榮花夢】　日本大百科全書（ニッポニカ）　JapanKnowledge
https://japanknowledge.com

戀川春町［1744-1789］

江戸後期の戯作者、浮世絵師。狂名を酒上不埒、寿山人と号した。駿河小島藩士で、要職を歴任するかたわら浮世絵師を志して鳥山石燕に学び、勝川春章に私淑。
1775年に洒落本を草双紙化した『金々先生栄花夢』を自画作で発表し、黄表紙の祖と目される。『鸚鵡返文武二道』（1789）で松平定信の改革政治を揶揄して、当局の召喚を受けたが応ぜず、ほどなく没した。

出典：【恋川春町】　日本大百科全書（ニッポニカ）　JapanKnowledge
https://japanknowledge.com

資料名	著者	出版者	出版年	請求記号
青本絵外題集（岩崎文庫貴重本叢刊；近世編；別巻下）	東洋文庫、日本古典文学会監修・編集	貴重本刊行会	1974	F2d/137/B2

青本

江戸草紙（広義の草双紙）の一種。赤本は丹表紙で大衆を掴んだが、大衆の読書力や趣味の成長に伴い、表紙のみ草色に変じ、内容を高めた大衆小説である青本が現れた。
出版書林は赤本の丹表紙に対応させ、草の葉で作った鮮緑の汁を表紙に塗り緑本（あおほん）と呼んだが、鮮緑は1、2ヵ月で黄色に変化したため、山梔子（くちなし）による鮮黄色を表紙に採用したが、名称だけは青本を捨てなかった。
1784年からの大衆小説黄表紙のブーム、恋川春町・朋誠堂喜三二・芝全交・山東京伝の活躍は、青本につづく大衆文芸黄表紙の巨大な流れである。

出典：【青本】　国史大辞典　JapanKnowledge　https://japanknowledge.com

デジタルアーカイブ

滑稽本の『道中膝栗毛』や、『六あみだ詣』なども所蔵

【法政大学図書館デジタルアーカイブ】古川久文庫	【URL】https://archive.library.hosei.ac.jp/	【QRコード】

古川久文庫 解説

古川久文庫とは、野上記念法政大学能楽研究所で兼任所員を務めた狂言研究家古川久（1909-1994）の旧蔵書。生前に一括購入され、能楽研究所に狂言を中心とした能楽関係資料200冊、市ケ谷図書館には近世文学関係資料325冊が所蔵されている。

出典：「法政大学図書館デジタルアーカイブ　古川久文庫」 https://archive.library.hosei.ac.jp/

江戸の遊び

第2回　「庶民の贅沢」

江戸時代の旅行

江戸時代、幕府は公用のために道を整え、宿場や道標の設置などの整備を進めた。これらを利用することで庶民にも安全な旅が可能になり、元禄年間（1688－1704）には、一大旅行ブームが起きた。
江戸最初の旅行ブームのきっかけとなったのは寺社への参詣であった。旅行には身元証明書とも言うべき「往来手形」が必要だったが、寺社参詣を理由にした旅行の場合は発給されやすかった。伊勢神宮への参詣（お伊勢参り）に至っては熱狂的な「群参」が繰り返し起き、「おかげ参り」と呼ばれた社会現象にまで発展した。
旅行人口の増加により、宿泊業や飲食業そして娯楽産業は活況を呈し、現代も顔負けの集客戦略、浮世絵などのメディア媒体を駆使したプロモーション戦略が展開された。
当時の庶民の観光スタイルの多くは、現在に継承されている。

参考：『江戸の旅行の裏事情：大名・将軍・庶民それぞれのお楽しみ（朝日新書；837）』
安藤優一郎著　朝日新聞出版　2021　多開　/朝日/837:S
『江戸時代：テーマ別だから政治も文化もつかめる』　朝日新聞出版編著；
かみゆ歴史編集部編　朝日新聞出版　2022　市開　215/AS

資料名	著者	出版者	出版年	請求記号
江戸買物独案内	中川芳山堂原編、花咲一男編	渡辺書店	1974	672.1/37

江戸買物独案内

元禄期以来の旅行ブームを受け、バラエティーに富んだガイドブックが出版された。
江戸で店を構える各種商人の名鑑『江戸買物独案内』（1824）もそのひとつ。
江戸全域をカバーし、上・下・飲食之部からなり、合計2523店が収録されている。
イロハ順に業種が配列され、業種ごとに各店の名前、住所などが個々に掲載された。
序文によれば、江戸の町は余りに大きく、どこにどんな店があるか分からない。よって、商品の購入にあたって便利なように刊行されたという。
地方から世界最大級の百万都市江戸に出てきた旅行者は、事前に観光案内書に目を通し、ガイドに案内料を支払うのが定番となっていた。

出典：『江戸の旅行の裏事情：大名・将軍・庶民それぞれのお楽しみ（朝日新書；837）』
安藤優一郎著　朝日新聞出版　2021　多開　/朝日/837:S

資料名	著者	出版者	出版年	請求記号
歌川広重：名所江戸百景	歌川広重画：メラニー・トレーデ、ローレンツ・ビヒラー文	Taschen	2010	721/200:W

名所江戸百景

浮世絵師歌川（安藤）広重の最晩年の風景版画のシリーズ。版元は魚栄で、1856年から1858年にかけて出版された。総数は2代広重の「赤坂桐畑雨中夕けい」を加えて119枚。

出典：【名所江戸百景】　国史大辞典　JapanKnowledge　https://japanknowledge.com

歌川広重［1797-1858］

江戸後期の浮世絵師。
生来絵が上手で、1811年歌川豊広に入門し翌年より歌川広重と名のる。1818年頃から画壇に登場、1823年には鉄蔵と改名し、画家として立つ。代表作「東海道五十三次」で抒情的で親しみやすい画風が人気を集め、風景画家として浮世絵界に確固とした位置を占めるに至った。以後、多くの名所絵・風景画の佳品を制作する一方、花鳥画にもすぐれた資質を見せた。
最晩年の1856-1858年、118枚に及ぶ広重作品中の最大のシリーズ「名所江戸百景」を発表し、老成した手腕を発揮した。広重の絵はゴッホなどヨーロッパの画家にも影響を与え、国際的評価を得ている。

出典：【歌川広重】　世界大百科事典　JapanKnowledge　https://japanknowledge.com

資料名	著者	出版者	出版年	請求記号
東海道中山道道中記	岡田屋嘉七編	岡田屋嘉七	1843の後刷	J2c/157

『東海道中山道道中記』

道中記。東海道・中山道を宿場ごとに里数や宿代・名所とそれに関わる伝説まで記載したもの。脇街道も多く取り上げている。漢字には振り仮名が付されている。

出典：人文学オープンデータ共同利用センター　日本古典籍データセット
http://codh.rois.ac.jp/pmjt/book/200021826/

資料名	著者	出版者	出版年	データベース
【電子ブック】 江戸のパスポート： 旅の不安はどう解消されたか	柴田純著	吉川弘文館	2016	収録データベース KinoDen
【電子ブック】 江戸の旅人たち	深井甚三著	吉川弘文館	2017	収録データベース KinoDen
【電子ブック】 江戸参府旅行日記	ケンペル著；斎藤信訳	平凡社	1977	収録データベース JapanKnowledge Lib JapanKnowledge ＞本棚>東洋文庫

【電子ブックの利用方法】

●自宅など学外のPCから電子ブックを利用するには、
「VPN接続（Any Connect）」が必要です。
・インストールはこちらから　・VPNについてよくある質問
●本の同時アクセス上限を超えた場合は、
時間をおいて再度アクセスしてください。

庶民にとっての芝居－観劇日の1日

江戸時代に芝居へ行くというのは特別のことだ。
朝4時頃起き、築地から船で隅田川をのぼり、水に囲まれた別天地、芝居町（猿若町）を目指す。浅草に着く頃には7時、猿若町1丁目には中村座と人形芝居の大薩摩座、2丁目は市村座と人形芝居の結城座がある。周囲の芝居茶屋でまず朝食をとり、芝居小屋前の混雑の中、芝居の口上（PR）や笑い声でにぎわう通りに出る。見上げれば高い幟（のぼり）、座元の名、役者名役名、題目などの文字看板と綺麗な色の看板絵が、下を向けば贔屓筋（スポンサー）から役者への贈り物や、所狭しの飾り物。期待が高まり、気分はすっかりハイテンションになる。

出典：『広告で見る江戸時代』　中田節子著　角川書店　1999　市閉　674.2/10

資料名	著者	出版者	出版年	請求記号
歌舞伎・遊里・索引 (原色浮世絵大百科事典；第11巻)	菊池明、 花咲一男執筆	大修館書店	1982	G3/692/11:L

資料名	著者	出版者	出版年	請求記号
大浮世絵展：国際浮世絵学会創立50周年記念	「大浮世絵展」企画委員会他編；まい子・ベア訳	読売新聞社	2014	721/260
式亭三馬集(古典叢書；第1巻)	式亭三馬著	本邦書籍	1989	913.5/22/1

役者絵

歌舞伎は流行の発信源のひとつであり、役者の衣装、髪型、化粧品から持ち物までが流行した。熱心なファンにとって、憬れのスターの役者絵は観劇の思い出を温め残すブロマイド代わりであり、仲間内や家族の間で役者の演技如何を語り合う格好のよすがにもなったことだろう。実際の舞台を見られない場合には、せめてもの慰めに1枚の版画を買って、贔屓の役者への熱い思いを満たした。
役者絵が当時の浮世絵版画総数の半ば以上を占めたのではないかとさえ考えられている。

出典：『広告で見る江戸時代』　中田節子著　角川書店　1999　市閉　674.2/10
『大浮世絵展：国際浮世絵学会創立50周年記念』　「大浮世絵展」企画委員会他編；まい子・ベア訳　読売新聞社　2014　市閉　721/260

東洲斎写楽［？-？］

江戸時代の浮世絵師。
1794年5月から翌年1月までの正味10ヵ月間を活躍時期として、役者絵、相撲絵の版画140余図を発表。当時大いに人気を得たようだが、その後は浮世絵界との交渉をまったく絶ってしまった謎の絵師。人物については諸説あるが、近年「写楽斎」と号する浮世絵師が八丁堀の地蔵橋辺に居住していたことが知られるようになった。
写楽の役者絵、相撲絵は、すべて蔦屋重三郎（蔦重）を版元として刊行されており、喜多川歌麿や十返舎一九を育てたと同じように、蔦重の炯眼なればこそ発掘し得た異色の新人であった。
作風は、写実的な役者絵表現の基本を勝川派に学び、これに流光斎など上方絵の作風も参考として、役者の似顔と演技の特徴とを大胆に、印象深くとらえるものであった。
理想的な様式美を追う従来の役者絵とは異なり、役者の素顔の上に作中人物としての性格描写を重ねる残酷なまでのリアルな表現は、当時の歌舞伎ファンに衝撃を与えた。

出典：【東洲斎写楽】　新版 歌舞伎事典　JapanKnowledge　https://japanknowledge.com

資料名	著者	出版者	出版年	請求記号
大英博物館春画	ティモシー・クラーク他編；早川聞多、石上阿希訳	小学館	2015	721/262

春画

男女の秘戯を描いた絵。古くは「偃息図（おそくず）の絵」、「枕絵」「枕草紙」「勝絵」「会本（えほん）」「艶本（えんぽん）」「秘画」「秘戯画」「ワじるし（印）」「笑い絵」などとも言う。
専門の画家による春画の歴史はかなり古く、中世には『小柴垣草紙』（13世紀）、『稚児草紙』（14世紀前半、鎌倉末期）など絵巻物の傑作を生んでいる。合戦に出陣する武士の魔除け、嫁入り女性の性教育用、あるいは純然たる楽しみのために、各時代、各派の画家が手がけたが、江戸時代に入ると浮世絵師がもっとも熱心に作画に当たった。肉筆画の絵巻などは12段、版画は12図を1組として構成されることが多く、描写に当たってはしばしばユーモラスな演出がこらされた。享保改革以後、春画の版行は非合法となり、かえって彫りや摺りの入念な豪華版が作られるようになった。

出典：【春画】　世界大百科事典　JapanKnowledge　https://japanknowledge.com

資料名	著者	出版者	出版年	データベース
【電子ブック】遊びの語源と博物誌	小林祥次郎著	勉誠出版	2015	収録データベース KinoDen

【電子ブックの利用方法】

●自宅など学外のPCから電子ブックを利用するには、
「VPN接続（Any Connect）」が必要です。
・インストールはこちらから　・VPNについてよくある質問
●本の同時アクセス上限を超えた場合は、
時間をおいて再度アクセスしてください。

本展示パネルで使用した出典及び参考ウェブサイト・データベースのアクセス日　2023/03/03